

日本痛風・尿酸核酸学会 評議員会議事録

開催日時：2025年2月10日（月）16：00～17：10

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

久留理事長が議長となり、午後16：00に開催を宣言した。

審議に先立ち議長より本日の出席状況は下記の通りと報告された。

評議員42名 出席者18名 委任状提出者17名 欠席者7名

監事出席者0名 名誉会員出席者4名

続いて下記審議が行われた。

【第1号議案 第58回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】大山先生
2025年2月20日（木）、21日（金）に両国の国際ファッションセンタービル KFC Hall&Rooms で開催します。たくさんの先生方の参加をお待ちしていますとのことであった。

【第2号議案 第58回総会優秀演題賞候補演題決定報告】大山先生
優秀演題賞候補について、防衛医科大学校 松尾 洋孝 先生、東京大学 佐藤 奈々 先生、東京薬科大学 関根 舞 先生、福岡大学 坂口 崇 先生、静岡県立大学 川上 由香 先生の5演題に決定したとの報告があった。当日の発表を聞いて最終的に決定し懇親会で表彰するとのことであった。

【第3号議案 2024年度決算・監査報告】細山田先生
貸借対照表の資産の部では資産合計が当年度527万円減の5775万円、負債の部では負債合計が前年度より184万円減の544万円となり、正味財産合計5230万円と当年度343万円の減少となっている。正味財産増減計算書については、ガイドライン印税が当年度1万円減で35万円の収益、ガイドライン転載許諾は当年度121万円増で351万円の収益となり、第57回総会収入は当年度141万円減の1053万円の収益で、経常収益は当年度25万円増の2090万円である。経常費用については、受取寄付金を原資とする若手研究者支援事業は116万円と当年度1万円減。総会費用は1244万円と当年度50万円増であった。以上より、経常費用は前年比153万円減の2433万円となった。財産目録では正味財産が5230万円と貸借対照表の正味財産と一致している。また税理士の確認報告書を得ているとの説明

があった。その後、内田監事の代読で久留理事長より監査報告があり 2023 年 12 月 1 日から 2024 年 11 月 30 日までの業務執行状況並びに財産状況について監査を実施し、すべて適法であり各種計算書類は財産状況および事業年度の収支状況を正しく示しているものと認めるとの報告があった。議長が議案 3 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 4 号議案 2025 年度予算案】 細山田先生

経常収益について、若手研究者支援事業の原資となる受取寄付金は今年度も 110 万円で計上、特別賛助会費と正会員会費は前年度予算とほぼ同額のそれぞれ 60 万円と 420 万円で計上、総会収入は 151 万円増の 1204 万円を計上する。次に経常費用について、給料手当の 90 万円増額を計上するほかは、前年度決算とほぼ同程度である。租税公課は 2024 年度の事業収入に対して計算された 101 万円を計上している。第 58 回総会収入および総会費用はどちらも 1204 万円と同額を試算している。以上より、2025 年度予算案として経常収益を 2272 万円、経常費用を 2522 万円と、経常増減額を 250 万円の減と見込んでいるとの報告があった。議長が議案 4 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 5 号議案 第 60 回総会（2027 年開催） 会長選出】 久留理事長

第 60 回（2027 年開催）学会総会の会長候補者として帝京大学薬学部 人体機能形態学 細山田 真 先生を社員総会へ推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。その後細山田先生よりご挨拶があった。

【第 6 号議案 2024 年度学会賞受賞者決定報告】 久留理事長

2024 年度の学会賞は両国東口クリニック 大山 博司 先生に決定したとの報告があった。

【第 7 号議案 2024 年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】 久留理事長

若手研究者賞は防衛医科大学校 河村 優輔 先生に決定した。また若手研究助成については、名古屋大学 大橋 勇紀 先生、東京薬科大学 関根 舞 先生、自治医科大学 桑原 政成 先生、帝京大学 藤井 航 先生、久留米大

学 森川 渚 先生の 5 名の先生に決定したとの報告があった。

【第 8 号議案 2024 年度 Web 講演会報告】久留理事長

第 1 回は 2024 年 6 月に京都大学 中山 健夫 先生に講演いただいた。第 2 回は 2024 年 10 月に防衛医科大学校 河村 優輔 先生と、早稲田大学 榊原 伸一 先生に講演いただいたとの報告があった。

【第 9 号議案 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第 4 版ガイドライン改訂委員会報告】今田先生

2024 年 7 月から 2025 年 1 月にかけて、96 の CQ の中から 6 つの CQ を採用した。1 位が薬剤選択①、2 位が合併症予防③（心イベント・腎イベント）、3 位が合併症予防④（心イベント・腎イベント、総死亡）、4 位がその他①（治療期間）、5 位が患者背景①（利尿剤使用中の患者）、6 位が治療基準・目標値②である。今後この 6 つのシステマティックレビューを進める予定。今の所前回同様のペースで進んでいるとのことであった。

【第 10 号議案 編集委員会報告】山内先生

優秀論文賞について両国東口クリニック 藤森 新 先生、帝京大学 細谷 拓司 先生、両国東口クリニック 大山 博司 先生の論文が優秀論文賞に決定したことが報告された。また編集委員の改選により、次期編集委員として千葉大学 大内 基司 先生、獨協医科大学日光医療センター 大谷 直由 先生、帝京大学 柴田 茂先生に決定したとのことであった。そのほか、J-Stage アクセス数、海外からのアクセス増に伴う投稿規定の見直し、転載利用料金の値上げ、J-Stage 上での全文公開、学会誌の紙媒体完全廃止、専門分野アンケートの実施などが報告された。

【第 11 号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】谷口先生（動画報告より）

昨年 3 月～4 月に教育研修会を行い 36 名の参加者があった。認定痛風医試験については申込者がなく実施しなかった。今年度も昨年同様オンデマンド形式で行う予定。視聴期間は 3 月 24 日～4 月 25 日を予定している。認定痛風医新規申請 1 名、更新 9 名書類審査については昨年同様 Web で審査を行い、全員が資格を満たしていることを委員会として確認し、理事会

でも承認された。会計報告については収入が 229,000 円、支出が 79,640 円であった。利益相反委員会からは、報告なしとのことであった。

【第 12 号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】市田先生（動画報告より）

2023 年 10 月に中国語版ガイドラインの販売が始まった。その販売促進について委員会で話し合った。エーザイが中国でドチヌラドを販売するので、そこで一緒にプロモーションをしていただけないかとコンタクトを取ったが、なかなか難しいとの回答であった。また日本の施設には中国からの留学生や、中国の先生との共同研究をしている先生がいるので、メルマガで学会員に向けて販売促進のアナウンスを流した。さらに（中国に関係のある）評議員の先生方から中国の先生へ中国語版が販売されたことを情報提供していただくようお願いした。この委員会の中で中国でも痛風、高尿酸血症のガイドラインが出ているという情報があり、それについて調べたところ、日本のガイドラインのように痛風、高尿酸血症について全体を網羅するガイドラインというよりは、それぞれの領域の先生が適時発行しているという内容のものだったので、ぶつかることはないだろうという結論に至った。中国語版の販売実績について 2023 年 10 月から 12 月は売り上げがなかった。そのあとの 2024 年 1 月から 12 月までの売り上げに関しては今年の 4 月にエージェントから報告があるとのことであった。久留理事長より今回の総会でエーザイが中国のリウマトロジスト 13 名を招待している。その際にこのガイドライン中国語版を 13 冊買い取りたいという連絡をもらっており、これをきっかけに中国で広めていけたら良いと思っているとのことであった。

【第 13 号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子先生

委員の交代について、8 名中 4 名の先生が任期満了となり、新たに大内基司先生、大谷直由先生、杉原志伸先生、高田龍平先生に就任をお願いし了承していただいた。委員長は金子先生が継続し、オブザーバーには細山田先生が就任した。第 57 回総会（鳥取）における活動としては、託児室の募集をしたが希望者はなしであった。ニーズ調査アンケートを行いその結果を次回、次々回会長にフィードバックした。アンケートの回収率は低かった。内容としては、特別講演、シンポジウムが好評であった。また学会に集中できる、観光も可能、交通の便、オンデマンドとの併用を希望などがあがった。企画や要望についてはフレイル対

策、痛風関節炎、境界領域の研究、参加型の企画などがあつた。第 58 回総会（東京）についても託児室やニーズ調査アンケートを行う予定。また多職種連携シンポジウムについて『医療現場における働き方改革の現状は？』というテーマで 5 名の先生に講演をお願いするとのことであつた。男女共同参画学協会連絡会関係では発足した時はオブザーバー会員だったが 3 年間の期間が終わって、昨年 12 月から正式加盟学会員になって継続している（分担金変わらず）。

【第 14 号議案 若手委員会報告】 桑原先生

4 年目に入り現在メンバーが 4 名（川知 祐介 先生、篠原 啓介 先生、田中 祥朗 先生、松隈 祐太 先生）増えて委員 20 名、オブザーバー 4 名、相談役 1 名となつた。阿部 弘太郎 先生や高田 龍平 先生はそのままオブザーバーとして継続していただいている。2024 年は 5 回、今年は 1 月に 1 回委員会を行っている。若手委員会のメンバーが増えてきたためこれからも継続して多くの先生方と活動していくことを目指して、謝金を 1 回 8,000 円から 3,000 円に減額することとした。その他の活動としては、第 58 回総会での高血圧学会とのジョイントシンポジウムの立案、若手委員会で作成した日本語レビュー論文を痛風・尿酸核酸学会誌へ投稿、委員間の交流を深くするため委員へ加入学会のアンケート調査（若手委員会メンバーの所属学会については、データベース化できている状態）、総会 2 日目朝 7 時半から公開型で若手委員会を開催し自由に見学していただく、高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第 4 版作成の協力などがあつた。最後に 2024 年度目標の達成状況についての報告や今年度の目標の説明があつた。

【第 15 号議案 学術交流委員会報告】 山内先生

各種学会との学術交流につき報告があつた。特筆すべき点として、大谷先生担当の動脈硬化学会で TEAM 事業「脳心血管病予防に関するリスク管理チャート」に尿酸に関する記載を追記修正していただいた。また土橋先生が担当する高血圧学会で昨年 10 月に合同シンポジウムを開催していただき、今回の大山先生の総会でも同様に合同シンポジウムを企画していただいているとの報告があつた。

【第 16 号議案 ありかた委員会報告】 久留理事長

若手委員会のアンケートから抽出した課題の進捗について確認された。アンケートの中で、薬剤の併用について書かれていたが、これはガイドライ

ン委員長の今田先生の方で併用に関しても CQ が出来るということであった。単位が取れる協力学会をたくさん作った方が良いという意見に関しては、学术交流委員会が拡大しているので進展しているのではないかと思う。合同企画については学术交流委員会や若手委員会で積極的に進めていただいている。一方で整形外科学会やリウマチ学会との連携が最近希薄になっていることが現時点での大きな課題だと思う。SNS (X) を利用した活動も停滞している状況。基礎医学との共同に関しては、昨年高血圧学会に参加した際に、分子生物学会とセッションを行い盛り上がっていた。当学会もこのような基礎系の学会とのジョイントが必要だと思う。学会誌の国際化については引き続き学会のグループで国際雑誌に投稿することも継続してほしい。国際交流としてドチヌラドが中国で販売されるということで今回エーザイが中国のリウマトロジスト 13 名を当学会総会に招待する（同時通訳が 1 人 1 人につく）。そこで交流のチャンスが発展していくのではないかと思う。

学会と財団との協調の推進について、執行部と財務担当の土橋先生、財団の山中先生と話し合いを行った。まず財団では予防啓発活動が十分に出来ていないということ。また以前は患者会（痛風友の会）が存在していたが、現在はないということ。人材育成では今年度の財団研修会では 100 名ほどの先生方に参加していただいたが、臨床のレベル的には少し低迷しているので協力医療機関の整備を検討しているとのこと。研究助成については、学会でも若手研究者に対して助成を行っているので、重複しないように財団の方は萌芽的なタイプの課題を取り入れるようにするとのこと。学会としての課題としては産官学連携（企業等）、調査研究、国際交流があげられる。インドネシアの先生から痛風について研究してみたいと言われてるので、今後オンラインで話し合う予定。このようなチャンスを生かして国際交流を進めていったら良いと思っている。難治性痛風に対して尿酸分解酵素の臨床試験を北欧の会社（Jonathan M. Kohl President & Representative Director Orient Strategy K.K.）で行っている。Uricase と rapamycin が両方入っていると効果が良いとのこと。そこで先方より当学会員の先生がたのご意見を伺いたいとのことで、それが順次進んでいる状況。市民公開講座や患者会を含む連携はガイドラインの作成のためにも重要なので強化していきたいとの説明があった。そのほか課題の各論が説明された。

【第 17 号議案 庶務幹事報告】 細山田先生

一般社団法人化以降の収支推移表について、ここ2年赤字収支となり、累積利益剰余金が減少しているが、新ガイドラインの発刊により是正されるものと考えている。学会ホームページアクセス数は、月平均2500アクセスと、前年度とほぼ同様である。10月6日に2124アクセスと高騰したのは、NHKの「チョイス@病気になったとき」という番組で痛風がテーマの放送日で、大山先生が出演されていた。2024年12月現在、学会員数520名で、前年度に比べ20名減である。会費未入の会員が昨年末で71名と1割強だったとの報告があった。久留理事長より今後ガイドラインが発刊されれば収支は黒字に転じる見込みがあるとのことであった。

【第18号議案 役員改選】久留理事長

新評議員として評議員会に鳥取大学 経遠 智一 先生 が推薦され、議長が議案18の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。また久留理事長が総会終了時をもって辞任するため、先日開催された理事会にて新理事長として市田公美先生、新副理事長として荻野和秀先生に決定されたことが報告された。その後市田先生、荻野先生からご挨拶があった（動画）。

【第19号議案 その他】久留理事長

特になし。

【第20号議案 第59回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】山内先生

会期については総会が始まって以来初の金・土開催で2026年2月27日（金）、28日（土）を予定している。場所は福井駅東口直結の再開発ビルAOSSA（8F 福井県民ホール、6F 福井県地域交流プラザ）で、特別講演を2題準備している。総会翌日の日曜日にはエクスカッションを予定しているのでぜひ参加していただきたいとのことであった。

最後に久留理事長より退任のご挨拶があった。金子前理事長から引き継いだ課題等をこの2年間で行ってきたが、まだ達成していない課題については市田新理事長の手腕に期待しこの学会を益々発展させていってほしいとのことであった。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は 17 時 10 分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長が記名捺印する。

2025 年 2 月 18 日

理事長 久留 一郎